

～三重県に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～

THE 市町支援通信



あすなろ学園市町支援グループでは、
「途切れのない支援システム」の構築を共働します

三重県に生まれ育つすべての子どもの発達保障・子育て支援を目指し、あすなろ学園は多くの市町と共働しながら、以下の取り組みを進めています。

- ① 発達総合支援室（保健・福祉・教育の一元化室）の設置
- ② 市町の保健・福祉・教育行政と共働した保育所・幼稚園での早期発見・支援・発達チェック、個別の指導計画の普及定着 ・市町の療育システムの構築
- ③ みえ発達障がい支援システムアドバイザーの育成支援

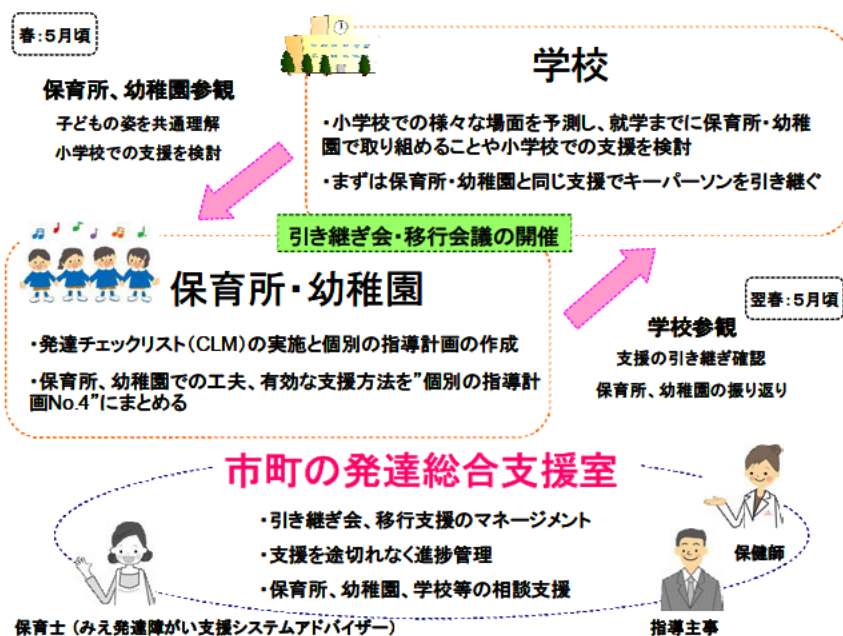
保育所、幼稚園から学校への移行

今年度も残すところ、あとわずかになり、保育所、幼稚園から小学校への引き継ぎが行われる頃になってきました。あすなろ学園では、下図のような引き継ぎ会・移行会議を提案しています。

まず、引き継ぎ会・移行会議においては、各市町の行政機関が核となり、保育所、幼稚園と小学校が相互に支援を検討し、取り組むことが大切です。1月～2月に開催することにより、園生活で取り組めること（椅子に座って話を聞くなど）、小学校での支援（入学式の前に下見の日を設けるなど）を具体的に検討することができます。

また、小学校では、保育所、幼稚園での“こうすればうまくいく”という支援方法にまずは取り組み、キーパーソンを引き継ぎます。

なお、このような取り組みは、第19回日本LD学会の大会企画シンポジウム「発達障害児の幼児期から小学校への移行期における支援と課題」で、あすなろ学園こどもの発達総合支援室長中村みゆきがシンポジストとして報告し、多くの関心が寄せられました。



わかまちで”途切れのない支援”を

～第2回 みえ発達障がい支援システムアドバイザーミニ学会 開催～

あすなろ学園での1年間の研修を終えたアドバイザーと今年度の研修者を対象に、相互の連携や専門性の向上を目指して開催しています。今回は、いなべ市こども総合支援室が「就学前の発達支援」と題して、「3つの療育（ステップアップ教室、出前式個別療育、出前式集団療育）」について報告されました。

各アドバイザーは市町の実情に合わせて、一步一步、着実に市町における発達支援を推進しています。

今後もあすなろ学園は、アドバイザーの更なるスキルアップを目指して、共働していきます。



あすなろ学園 11月13日

三重県のシステムに学んで

三重県の途切れのない支援システムに関心のある機関からの視察が増えています。

今年度、来園されたのは、長野県塩尻市保育園長会（6/28）、岐阜県立希望が丘学園（5/18, 10/25）、岡山県倉敷市児童家庭支援センタークムレ（10/18）、札幌市障がい福祉課、静療院（11/9～10）です。

早期発見・支援 岐阜県立希望が丘学園

岐阜県では「保育園などにおける個別の支援計画の推進」を最重要支援項目に掲げて、三重県の「発達チェックリスト（CLM）・個別の指導計画」を取り入れています。

このチェックリスト（CLM）は、参加者が同じ場面を統一した視点で観察し、共通理解を図ることができます。それらを基に、子どもの行動から気持ちや要因を推測し、日々の保育に即した、具体的な指導計画を作成します。岐阜県で取り組んで、「毎日の積み重ね」と「園などの集団生活」による効果を実感しています。

まずは、子どもが日頃から通っている身近なところでの支援から、岐阜県の“途切れのない支援”の実現に向けて三重県と切磋琢磨し、推進していきたいと思えます。

人材育成 札幌市障がい福祉課・静療院

札幌市では、人材育成体制の整備に向けて、あすなろ学園と同様の児童精神科医療施設「静療院」で取組みを開始しています。

視察では、みえ発達障がい支援システムアドバイザー研修の研修者が、研修プログラムの1つである保育所での個別指導計画の作成を実践している姿に、そして地元の保健・福祉・教育の関係者が一同に集まって町全体で取り組むシステムの在り方に深く感銘を受けました。研修者が、子どもの行動の意味をわかりやすい言葉で説明してだけでなく、町の関係機関の方たちも共有し、これからの成長に備えていく様子はまさに「途切れのない支援」のための具体化のように思いました。

札幌市においても、今回視察させていただいた内容を札幌的に具体化していきたいと考えております。お忙しい中、丁寧に説明、見学させていただきました。ありがとうございました。



市町からのNEWS



今回は、鈴鹿市、亀山市、鳥羽市のアドバイザーの取り組みを報告します。

支援の引き継ぎ

鈴鹿市 子ども家庭支援室



篠原アドバイザー
(報告者)

①保育所（園）・幼稚園等での巡回相談

内容：保育所（園）・幼稚園等に出向き、子どもの困り感や発達に応じた具体的な支援の方法を先生と一緒に考えていきます。

効果：園での支援が継続されることで見えてきた、効果的な支援方法を小学校へ途切れなく繋げていくことができます。

②引き継ぎ会のマネジメント

内容：市内のすべての保育所（園）幼稚園、小学校に呼びかけて開催

効果：多くの園からの要望があり、具体的な支援の引き継ぎの必要性が高まってきています。

子ども支援と保護者支援

亀山市 子ども総合センター 子ども支援室

①療育相談（5～6人の子どもの集団療育と保護者の話し合い等）

内容：多職種スタッフによる、発達につまずきのある子どもへの発達を促す関わりと、保護者への相談支援

効果：「とても有意義な時間になった」「お母さん同士の交流ができた」等、子育て支援の効果が大きく表れています。

②保育所での“なかよしタイム”

内容：園生活の中で15分から20分程度の絵本の読み聞かせや手遊び、教具を使った遊び等

効果：保育士との個別の関わりにより、コミュニケーション力や見る力がついできます。さらには、クラスの子も1～2名参加することであそびのモデルとなり、友だち関係の広がりにつながっています。



佐藤アドバイザー
(報告者)

保育士のスキルアップ

鳥羽市 子育て支援室



竹内アドバイザー
(報告者)

①特別支援児部会

内容：各園の代表保育士1名（障がい児担当）が参加する部会で、発達チェックリスト（CLM）を活用して個別の指導計画を作成

効果：日々の保育に即した具体的な計画を検討して取り組むことにより、確実に“子どもが変わる”と現場の保育士さんが実感されています。

②巡回指導

内容：市内の保育所を巡回して担任への相談や助言

効果：現場で子どもの姿を見ながら、具体的にかかわり方を伝えることにより、担任保育士も「こうすればいいんだ！」とイキイキと保育をされています。

チェックリスト(CLM)から個別の指導計画作成へ！

＜事例＞ もうすぐ生活発表会です。担任は劇あそびを予定していますが、担任の指示に従って行動することが苦手なA君のことが気になります。A君が自分のせりふや踊りを覚え、みんなと一緒に楽しく参加できるようになってほしいと担任は願っています。

↓ CLM4～5歳児用から

《チェックされた項目》(4) 先生の指示に従って、みんなと同じように行動ができない
《要因や気持ち》耳からの情報がわかりにくい、ことばの理解ができにくい

| 目 標 | 期 間 | 具 体 的 な 指 導 方 法 | 月 日 | 結 果 |
|--|----------------------------|---|-----|-----|
| 保育士の話を聞いて劇あそびができる ＜いつ＞ 劇あそび 自由あそび ＜だれが＞ 担任 ＜どこで＞ 保育室 | 12/1 ~ 12/14 (2W) | 準備すること ①台本を紙芝居にし、番号を打つ。 ②模造紙にせりふを大きな文字で書く。 誰のせりふかよく分かるように色やシールで工夫する ③劇に使う音楽を給食時間などに聴かせ雰囲気づくりをする 全体指導 (1) ①の紙芝居を読み、劇のイメージを持たせる。 (2) 今日する練習場面を①を使って説明する。 説明は短く、分かりやすくする。 (例)「1. 今日は、紙芝居の1番と2番の練習をします。」 「2. 練習は2回します。」 個別指導 (1) 担任と事前にその日の場面を練習する (2) 立ち位置は、モデルになる子の隣にする (3) せりふは、モデル児の後に言うようにする (4) できたことをしっかり認めていく | | |

インフォメーション

- ・あすなろ学園のホームページを更新しました。ぜひ、ご覧ください。
- ・あすなろ学園講演会・シンポジウム（平成22年8月5日開催）の様子を掲載しています。
- ・シンポジストの当日のパワーポイント資料がダウンロードできます。
- ・来年度の講演会・シンポジウムは、平成23年7月28日（木）です。



2010年12月14日

＜発行＞三重県立小児心療センター あすなろ学園 広報担当：こどもの発達総合支援室 市町支援グループ
 〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL：059-234-8700 FAX：059-234-9361
 MAIL：asunaro@pref.mie.jp URL：http://www.pref.mie.jp/ASUNARO/HP/